



詠諧世古乃物競全

5
2845

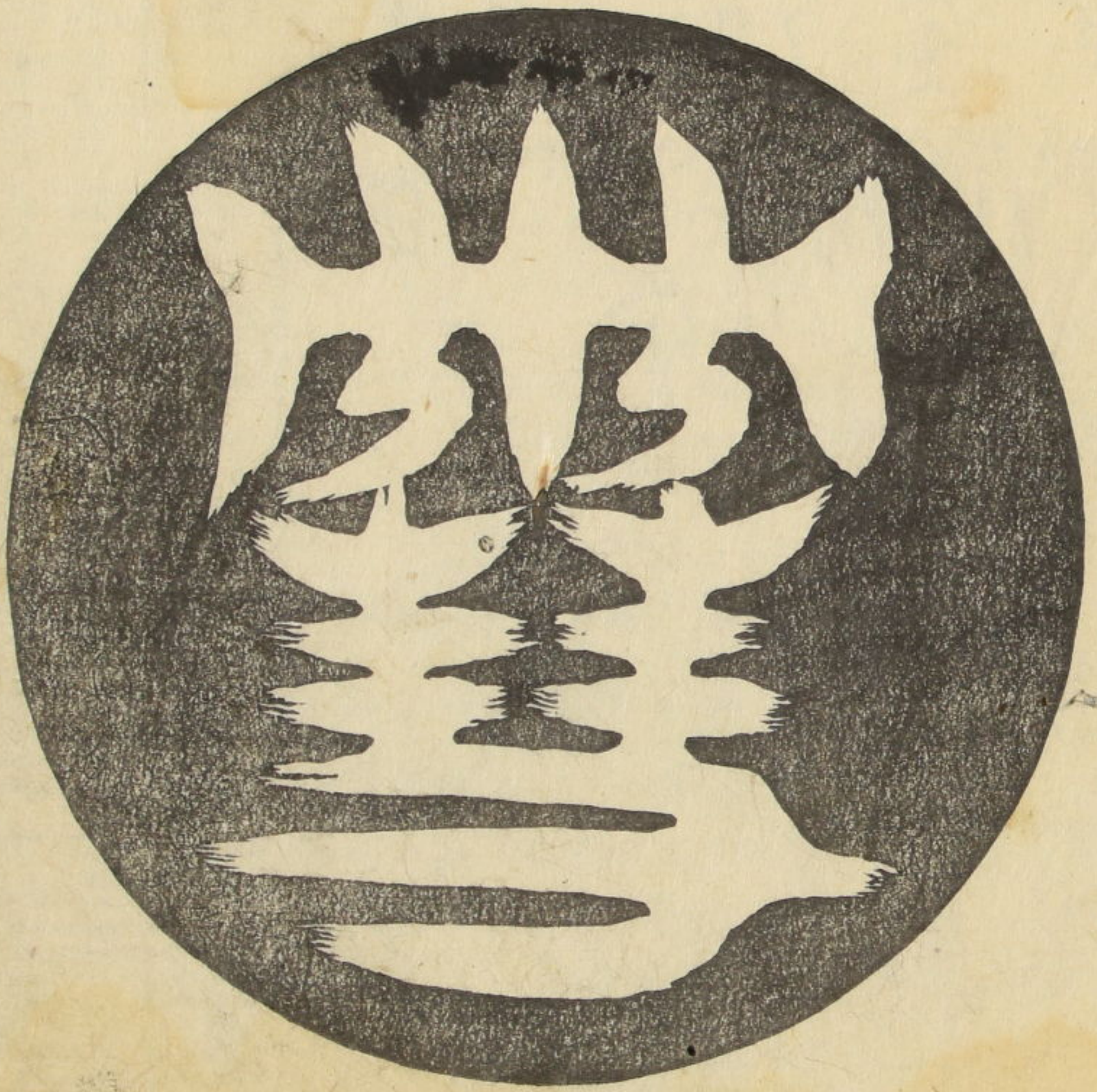


三冊とも得傍ふこゝ筆世しよ一隊し事ハ
物あらせひの評めも非次又顯乃解よと
何らに自乃前文もあらきしあしあき
判の意いけりあも世し大まか様中も小只
世吉乃物くらへとのそとあしあき

荏土神田玉池

一陽井素外述

寛政五年癸丑夏



松竹

栗堂

幾世

陰

松

中

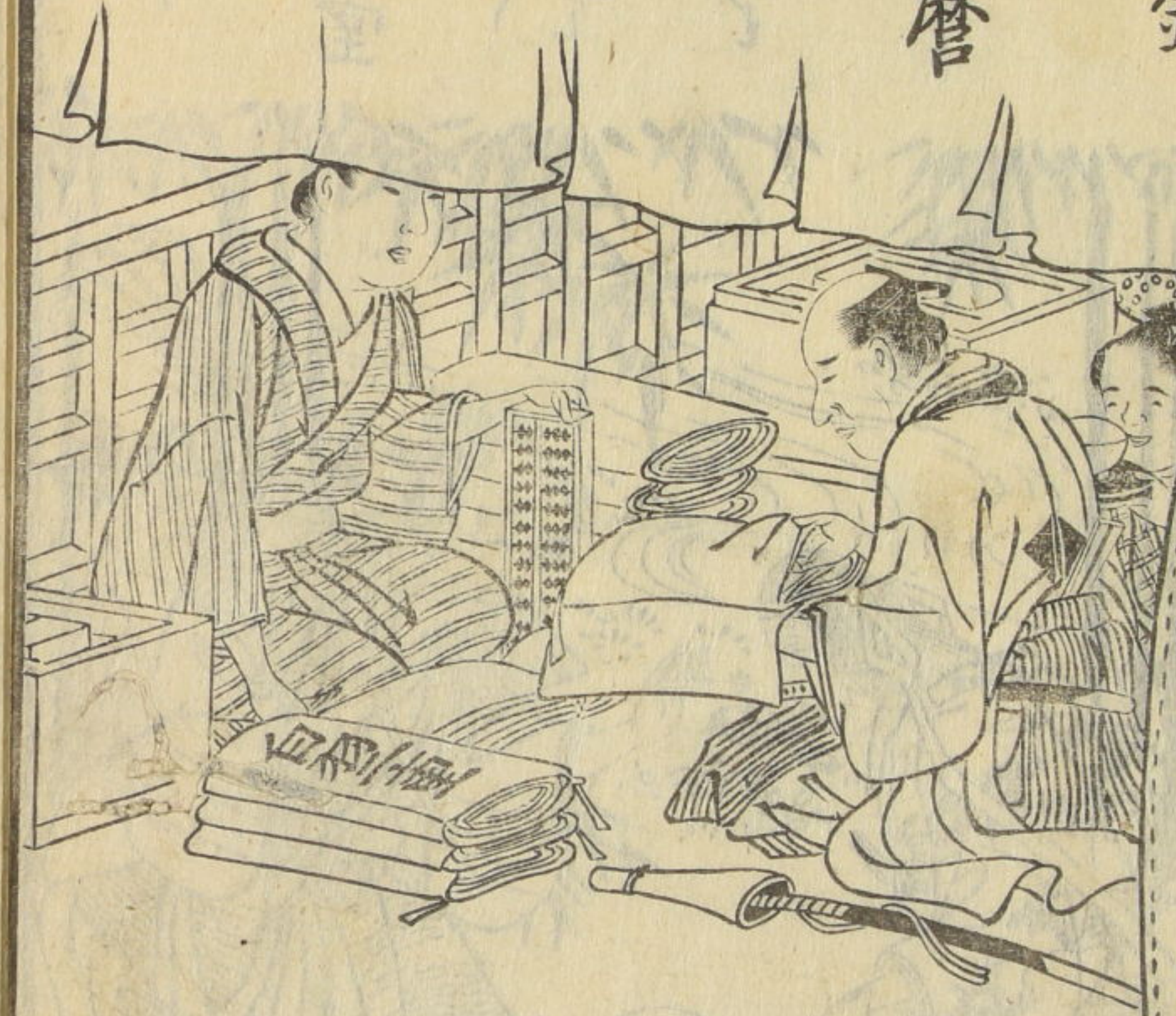


君の代の久しからんき例一人の歡心長からんを尚める小八凡松竹小
 寄せざるハ何れもこれを新卒のつ誓姻の家小もけ二つをせとと又林仙ハ
 松子と食一雪風ハ竹実吹咏むと世謀小めてた抱けとやと履き

やまを
羽二重ト
か
錦ト

あちごや

素磨
や
羽二重
さ
は
乃
王



雅郎

山
古き
花
を
うら
あ



羽二重の系目正しを平らうふ清らあやまとの玉風流はれや綿の
あやもろたまやふあとしくをよと君せし八澤去れ人情はらんあすく
えうあま事ハけはよ及もを工あら業ハ彼玉保る下や

棟揚の
脛^ト
吹草祭^ト

蜜柑^ト

呉龍

棟揚や

見ふ^トの

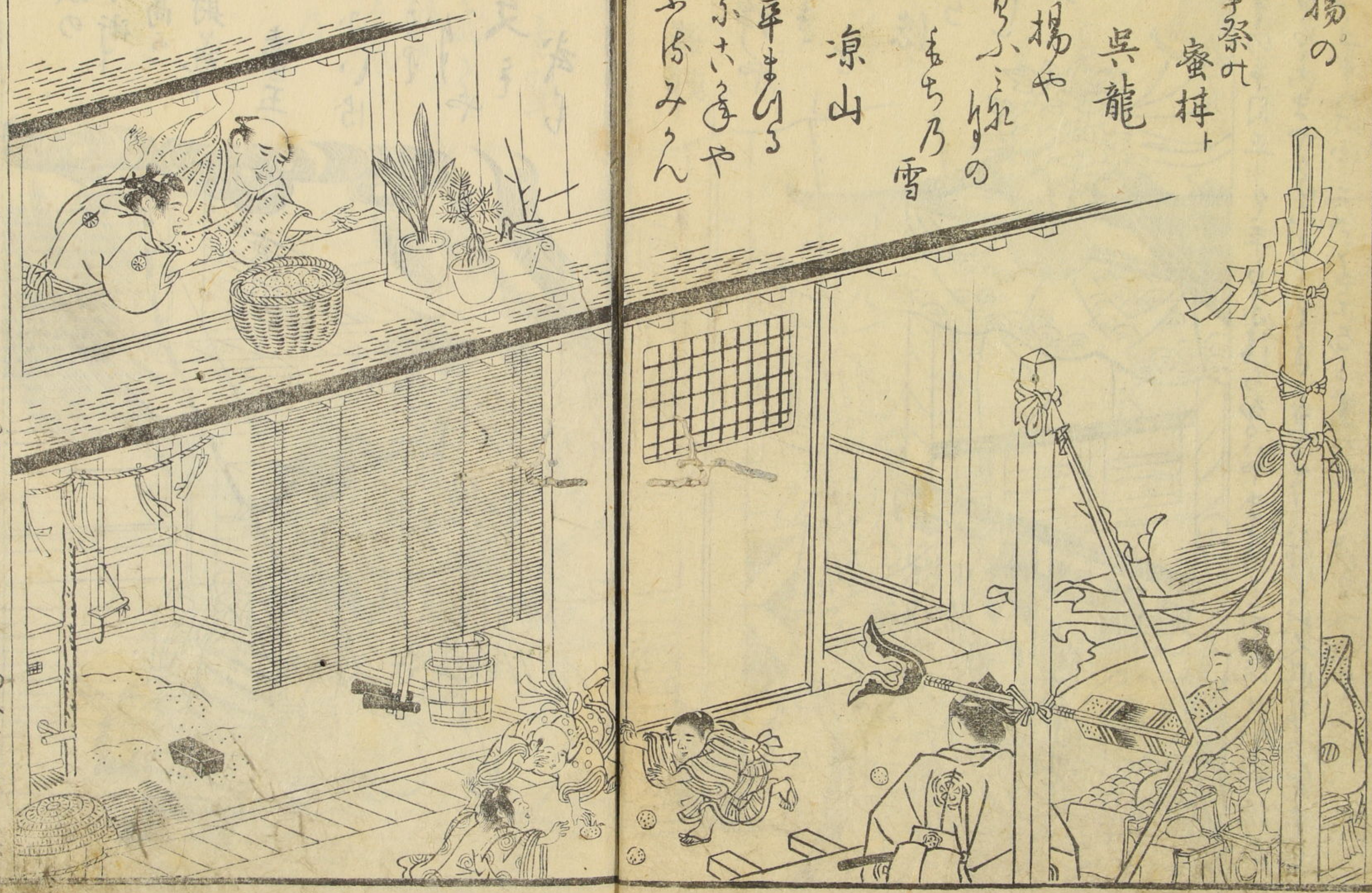
もち乃
雪

涼山

吹草ま^ト

徳ふ^トのや

やみ^トん



棟揚ハ祭神田季小か^トり^ト宵々一鬼門を防く弓矢の備へ^ト肩^トち^トら^トを^ト修
繕室を^ト造^トら^トし^ト如^ト吹草祭ハ^トち^トけ^トも^ト唱^トふ^トほ^トた^トけ^トハ^ト祿^ト祭^トの^ト燦^ト火^ト志^ト
紙^トや^ト見^トハ^ト鏡^ト火^ト祭^トあ^トり^トん^トを^ト投^ト下^トを^ト蜜^ト柑^ト小^ト童^トア^トハ^ト魂^トを^ト宙^ト不^トす

兵庫改新政雲中一矢とてあちて怪物を仕とめ御膳を安ん奉
 目と与一宗言る勢をもちて扇の的伏射切て源平の眼を翳らせし
 新改の大業小胡恩と厚し一宗言ハ成功小言名を輝うと

頼政の

弓術ト

宗高の

射藝ト

素玉

雲小い片

弓とて

文毛

武毛



素翠

扇花く

少のと

雲風

海乃

音



明日香山ト
市教ヤト

霞外

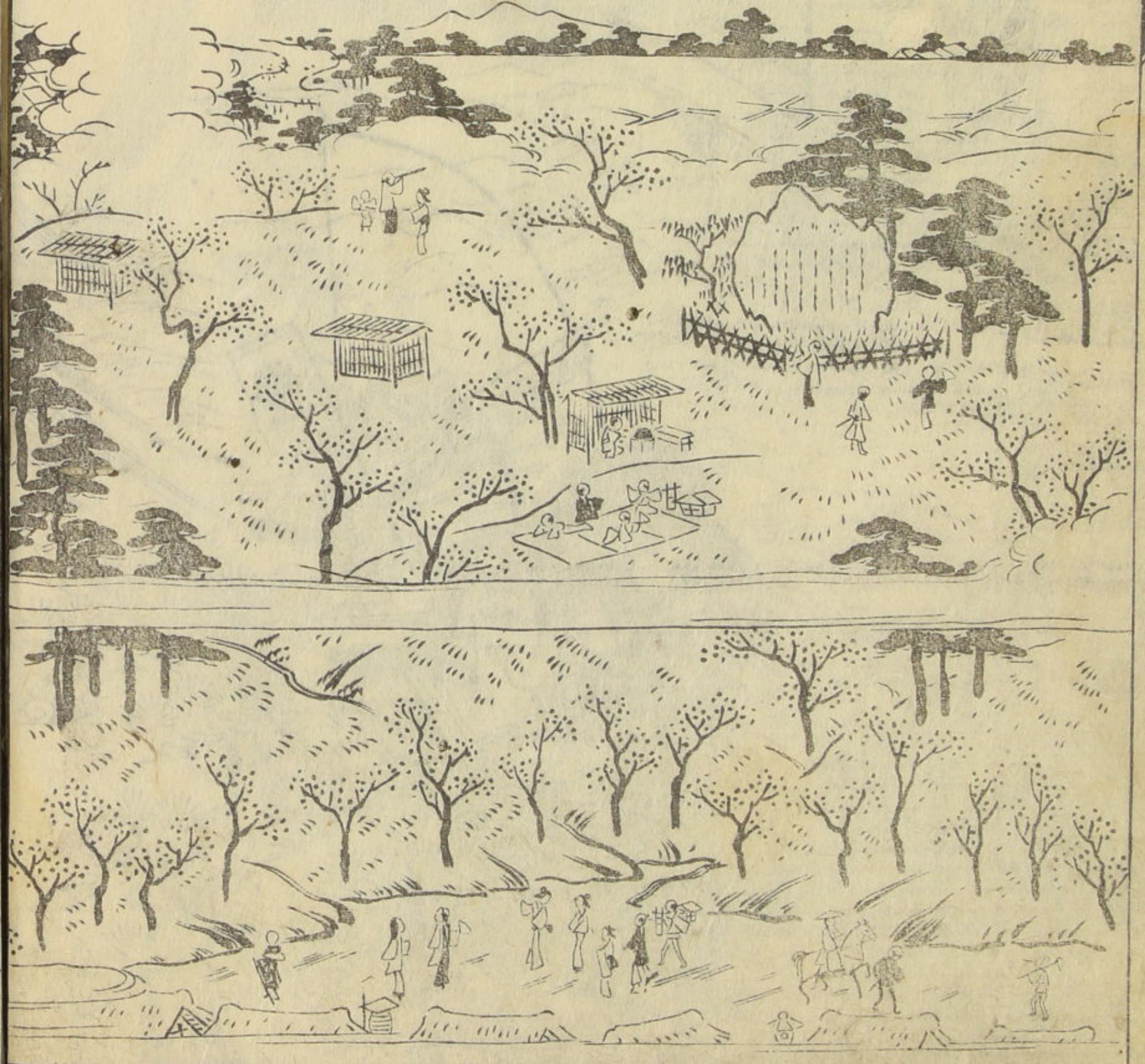
夕乃

くもり

雨

阿波

山さ
くら



素徳

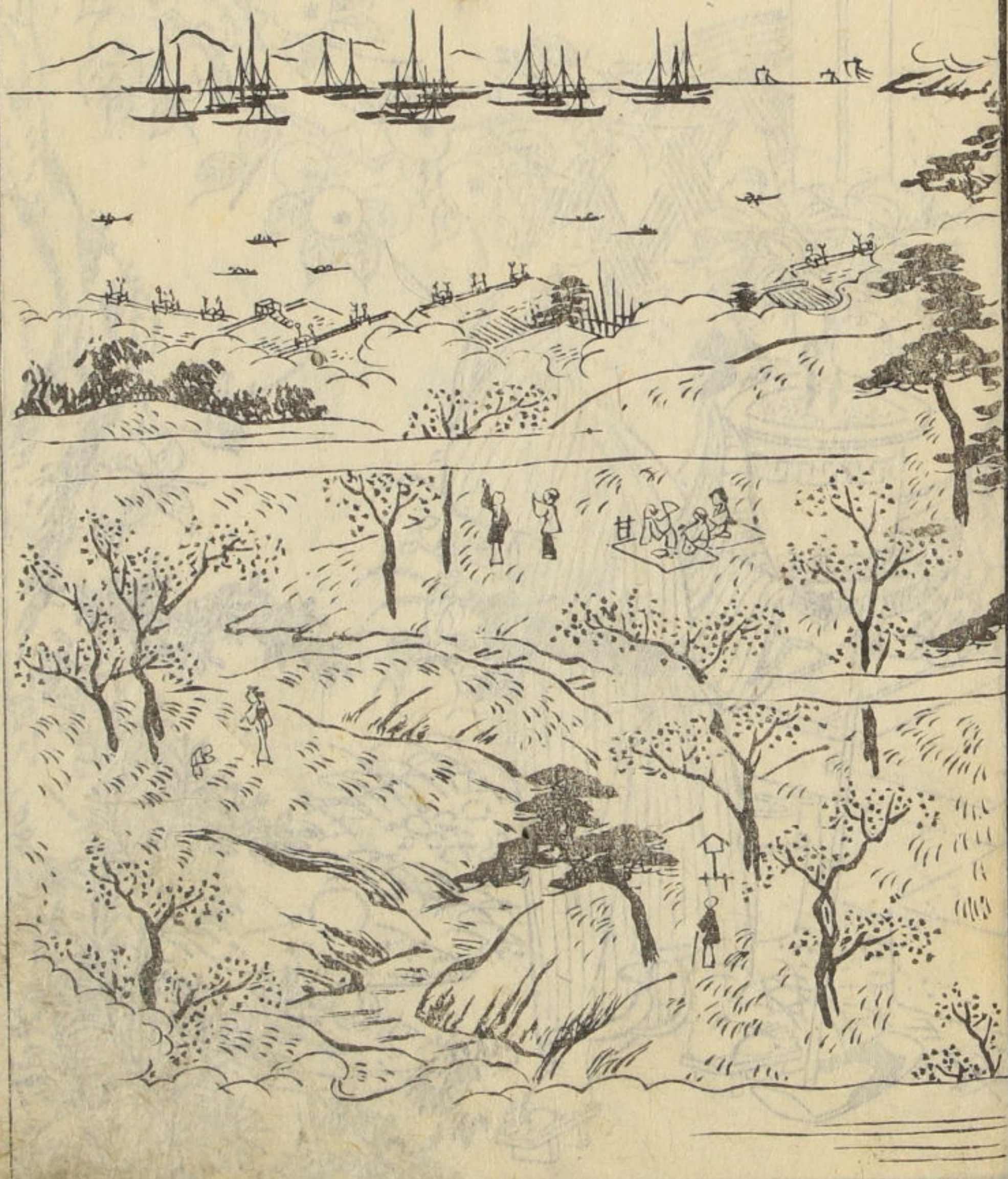
善山ハ

新市

と心

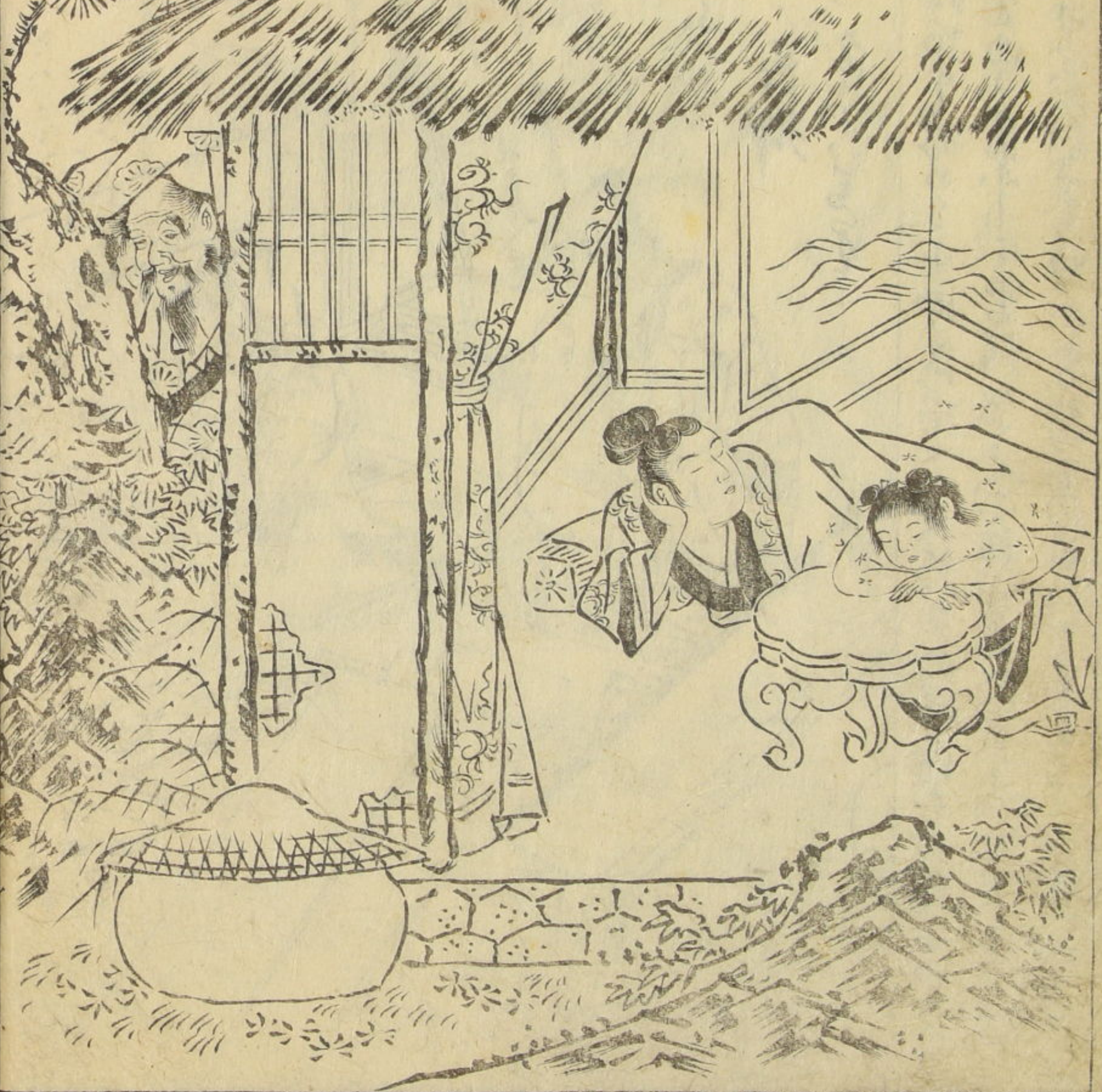
きらひ

やう



飛鳥山ハあたらに宅アとて平甚の耽を耕人の性うひ徳ヤラ世市教山ハ
いざう嶮く海上眼小見も所う小回船の出入をまあくいさま
双方橋敷株のりて真日の投あ本朝の南北小ころ

蚊をいよめ
 孝ト
 虎小怖生ぬ
 孝ト
 香蒲
 蚊の習乃
 天のや
 人乃孝
 昶富
 孝不凝る
 身の令
 後不蚊ハ
 ものの



左車
 虎と
 見々
 父子
 かをまハ
 飯も
 孝乃
 歯毛
 孝乃
 厚子少
 十市更
 月下



吳猛家貧小して夏時帳か一紙衣を脱て蚊の蚊小苦む頃助け其才
 麻を安くせむ楊香父子山より行て悪虎小原香追ふと才小叶た
 祈りに天慈意何してや猛獸忽小退き去蚊蒲虎口孝小大か

歌舞妓の世の中、人の業を、目も小見ぬ雲の上人、極き世の
 満男を、此世の、小鬼神の、見物をも、喜と思を、抱女を、
 ちりむらよる、紀おや、満と、かきて、ききお、よる、と、おら、き、る、人、り
 きの、如く、おら、き、き、ね、の、き、小、病、の、ち、き、や、を、か、な、う、ふ、あ、と



遊女ト
 哥舞妓ト
 翌の夜ハ
 祈枕ふを
 ほととぎす
 己禮
 慈陽花
 紅粉
 おろし
 藍の隈
 可長



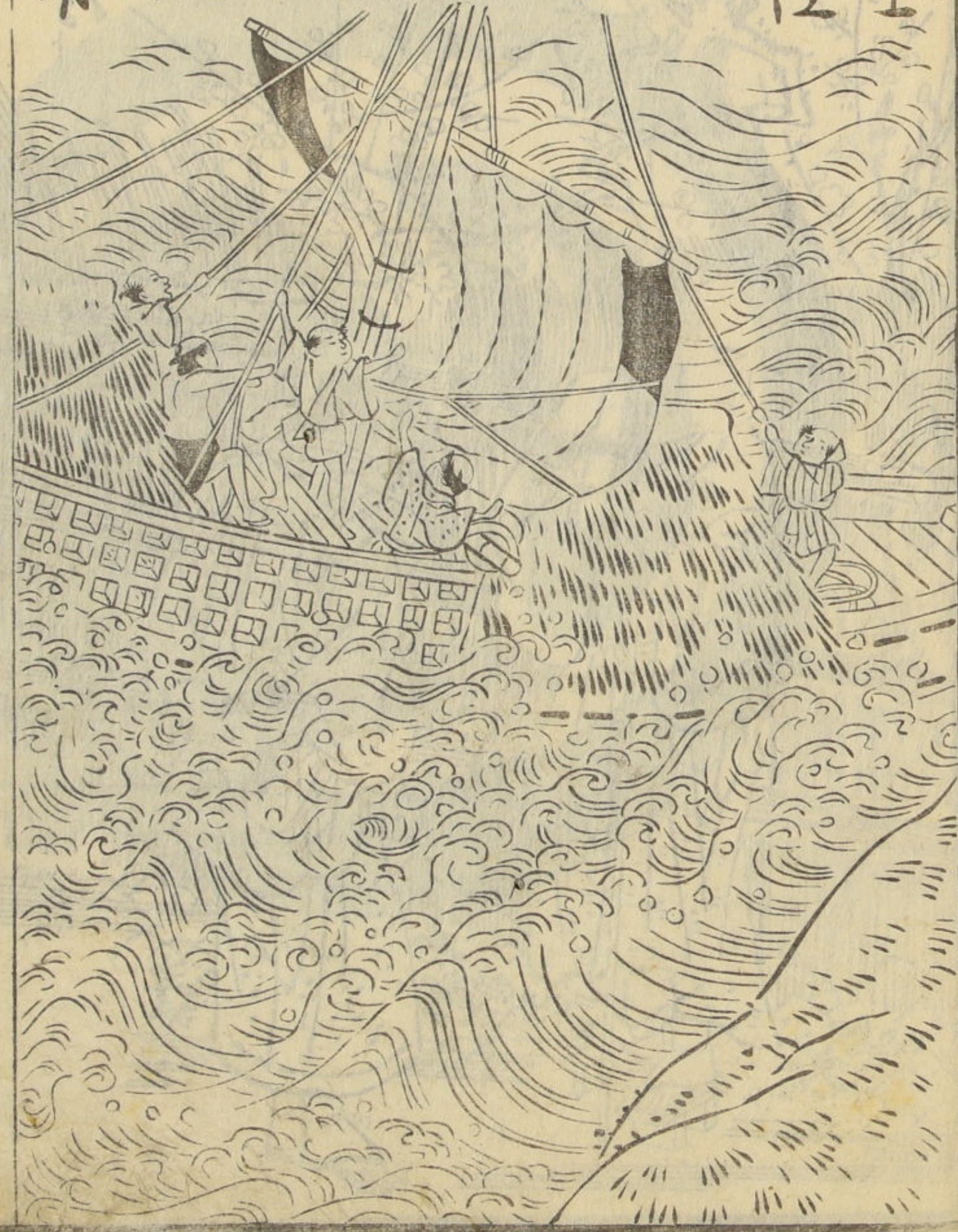
松魚ト
 河豚ト
 うりぞか
 海を、か、い
 海乃、藍
 晨風
 見く
 の、あ
 ま、あ
 と、落、さ、ま
 ふ、と、け
 素后
 四方

鯉を、若菜の、や、小、原、き、味、い、を、賞、せ、る、ま、鏡、ハ、時、面、の、ま、小、何、こ、ま、ら
 食、物、と、用、い、ら、る、ま、と、毒、何、こ、ま、人、幸、小、ま、ぬ、う、く、お、鯉、も、彼、法、師、の
 草、紙、稀、小、見、ぬ、人、何、ま、や

坂車
 難の舟
 船行也
 坂子車
 送乃
 小金井
 露水
 汗也
 坂ハ録ハ
 藤沢
 素曲
 いさほや
 車を
 肩の



坂乃上
 桐生
 玉江
 風小御を
 揖乃樹
 種
 日
 岸鳥
 系也け
 見ま
 奥の灘
 真中村
 素明



坂小推也る車ハ公力とも小岸ハ一終小一步を何やまてたちり
 百歩をくら敷灘を紫ぬきも船ハ只天と風と紙敷むさきと一楫を遠
 せハ忽ち尋小ハのほり河ふせもまきり一何公愛小久ら奔

耳をいとも色を見よとの声ありてあはれみ眼くらくても公のめらるるハ
形なりてこそと見よいふやや不々あらはしめても味いを知るはハ

古月乃劫
聲の氣結ト

文洞

杖とめ々

多さう

見よぬ

空の

梅

鷹里

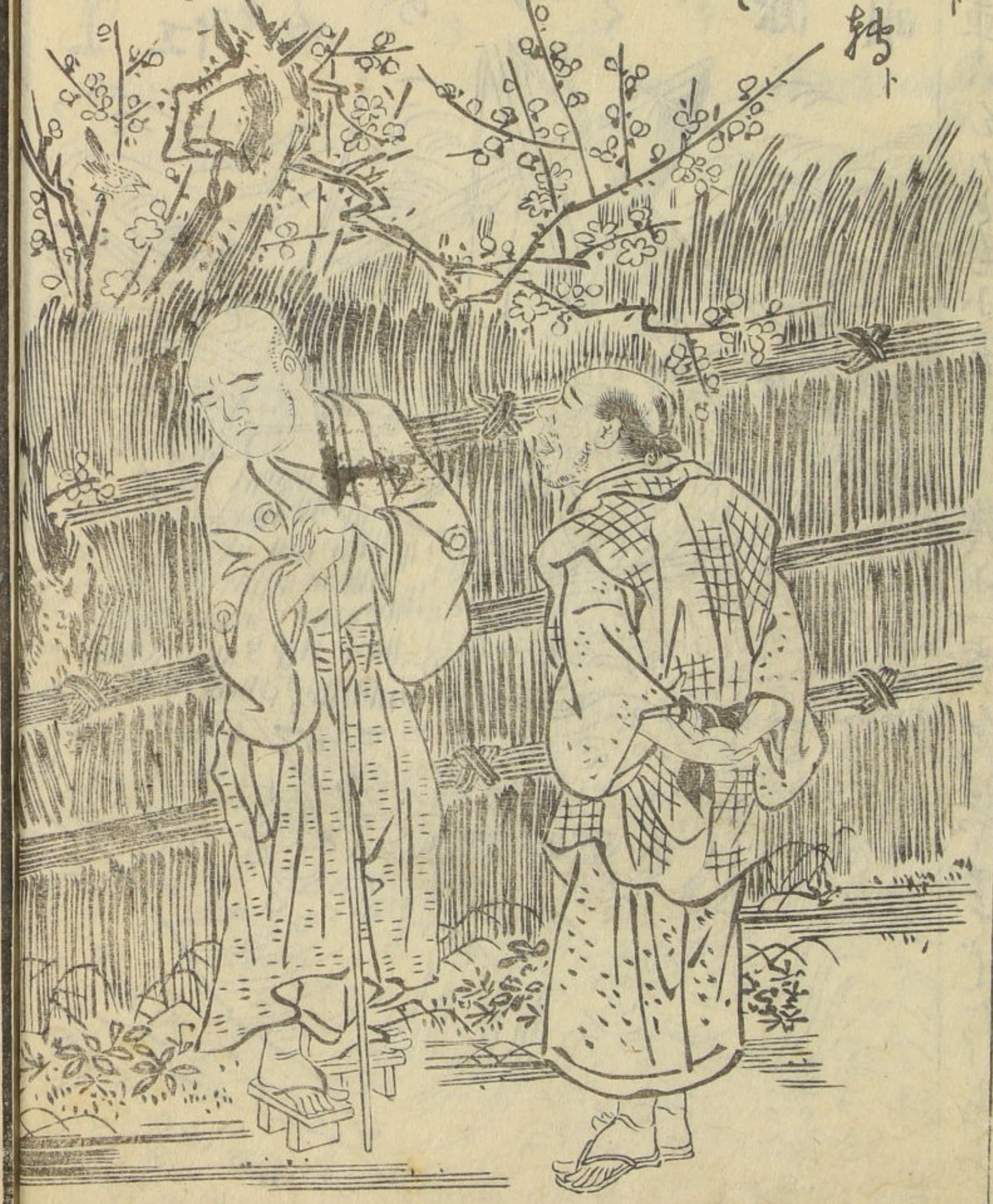
見よぬ

おれ

おれ

とあ

工丈



文雅の人ふ下戸海はく質朴の家小上戸稀あり酒ハ福ひと稱る老を
扶け欵を交ゆと阿れと下戸を拘る候も齒意云楮皆子等の祝名
阿る二品とも小壽のむら小浅と



上戸ト
下戸ト
亀文
花ハ
上戸
月見
志ハ
下戸ト
はし

鳥の聲乃せはく後も送りき出の久き八出口の柳小面を帯さるん風情
して拓きまぬきお舟舟小瀧られもなひあ日におに斜めたる中町の町を
ゆふ君の知るはま車よきハ片頬小笑をてあとかをまはせぬき致所を

出口徳

曙ト

中乃町の

夕暮ト

冠車女

朱雀野

やまろ

残る

西の

月



素琴女

振植

をいし

廓乃

入相

琴志女

中乃町

入あひ

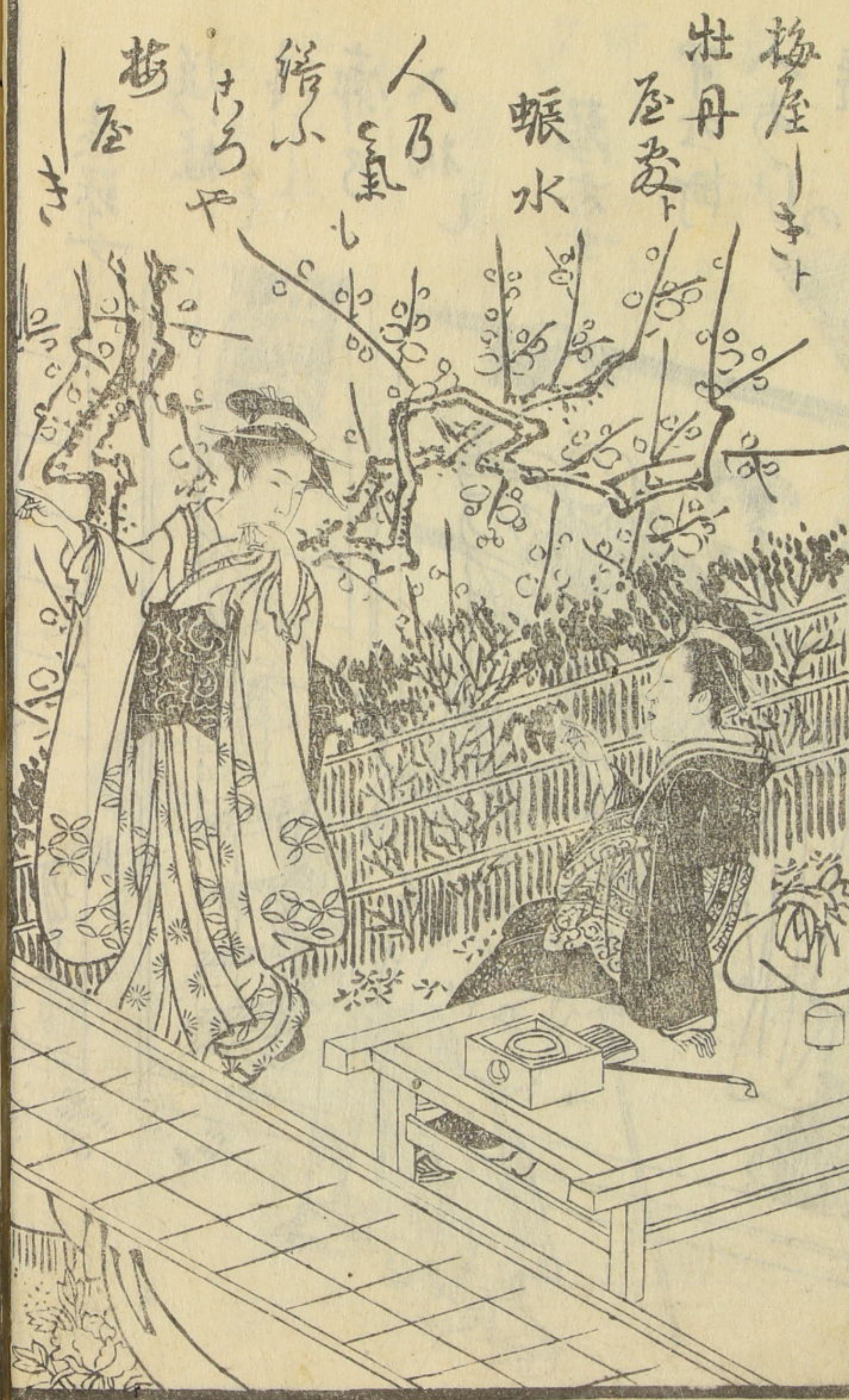
後

茶

片



梅屋敷の江戸の東小の門て美の人氣は淑めくを冠く花の假地を
澄きる幹の屈曲むへ所龍梅と号し牡丹屋敷の北の方飛多やまふ
道一とやをふに富美の名はふ敷品ゆく枚楳堂の長者けよやまふ



梅屋敷

牡丹

屋敷

振水

人乃

借ふ

梅屋

き



振露

芙蓉

何

室ふ

名とり

牡丹

敷

孔明
正成

文榮

三半

訪

笑

見

室

乃

宇
女



江永

嗚呼忠臣

南校

乃

花

春

長次



諸葛氏跡跡圖より出て智謀の雲を起し楠氏漢川小終れと英名
かき足るは年曆を角とく和漢とかく是中元師良將なり
兒俗といへとも知らざるなり

道成寺の
鐘^ト
望^ト夫石^ト

素啓

春^モ

花^ル

おまん

け^ハ

うら

や^ハ



其葉

肌^少

石^々

領中^を

ふ^ハ

素^纏

一^何

思^ハ

ス^ル

ス^ル

鴛^鴦



佐用姫ハ意蓋小死して石とあり梅木に娘ハ枕着小寝て鐘をとりく
欠心怨念とを小舟を乗くそ名取海を忍ぶ一女子のあれらむ

いせのつらふらふらほくまのふとせあむはまはりき人の徳を教とせ
 後頼朝 ふせむしうらの森ふらふとせとせのあむとせ教とせぬ
 鶴坂八城前也は南宗男せ一教を傳ふいふき又尻とせ不欠の徳也

筑摩平奈ト

鷄坂奈ト

月子成ト

禍和ト

まのりト

悟隆

皆氏子

くらぬ 杖の下

麴人



田國乃男ト
巡礼の女ト

善光の

阿とや

おの佛

藤叶也

稻曉

振袖乃

巡礼見

くらぬの

津篤

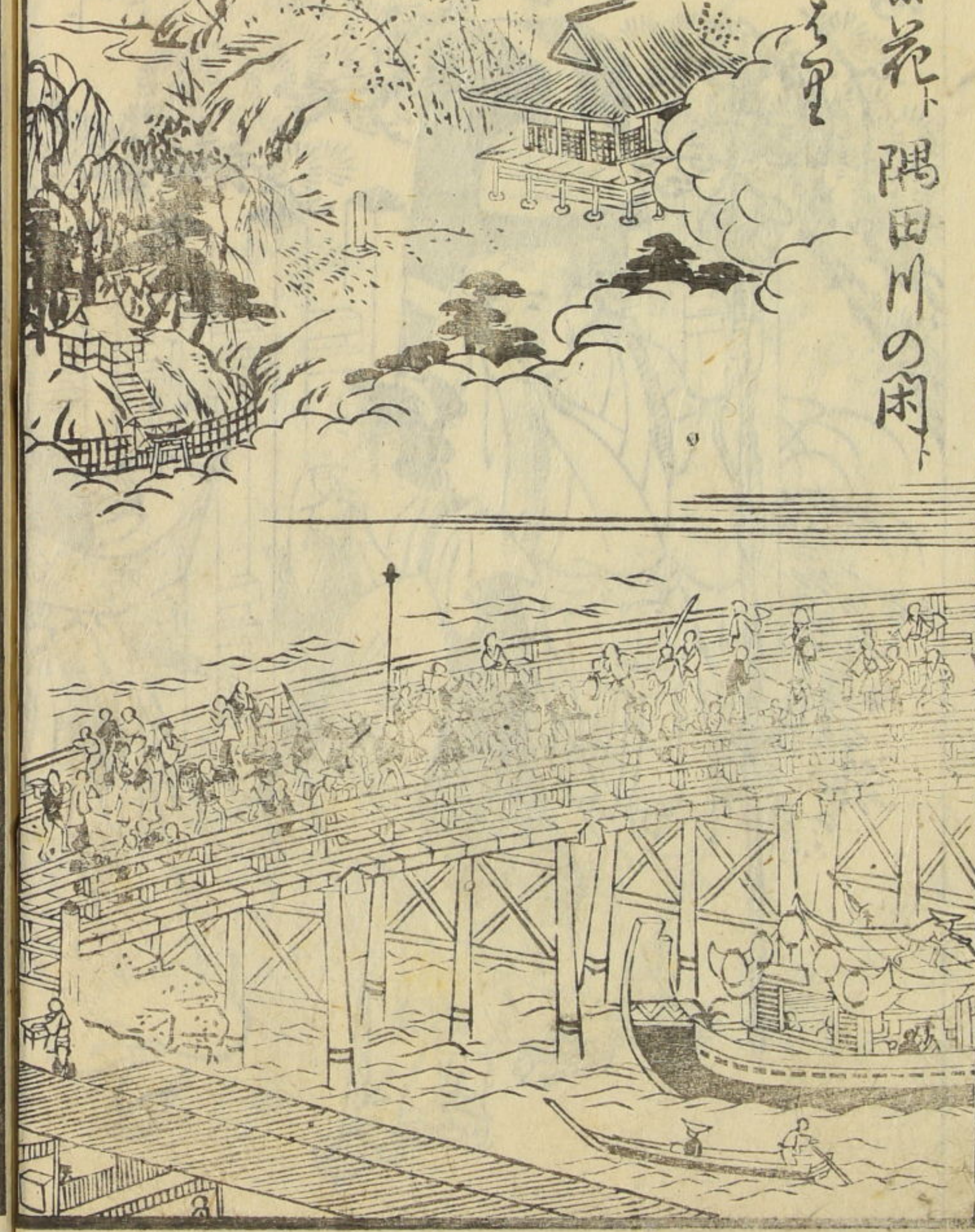


田國、南北の山岳、東に於て、西海、買場、慶節の満ち、洋をめぐる、小大の
 男の言き、及、負、く、ハ、作、く、又、表、れ、え、え、り、巡、礼、の、初、世、之、而、始、れ、る、を、老
 若き女、の、髪、櫛、を、付、く、也、津、篤、の、言、き、は、小、通、教、を、傳、ふ、を、表、す、也、

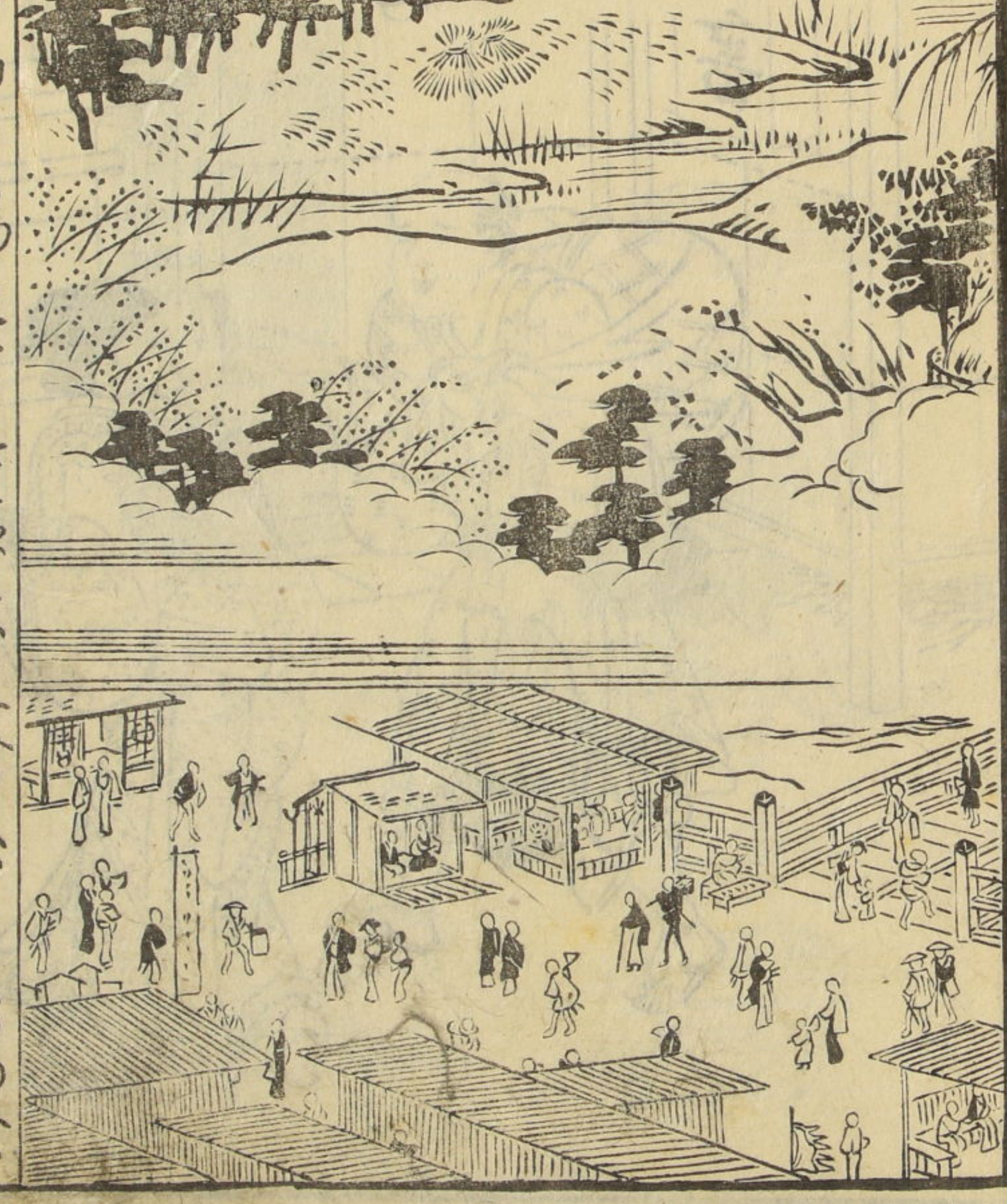
あま橋東の大路は、高里、既先をつらぬき、蓮を並へて、もき、あまか、橋を
 走し、は、こ、ふ、紅、葦、陌、隅、回、河、色、の、村、里、八、都、舎、ふ、は、く、き、あ、う、ら、あ、ま、ま、く
 風、涼、う、木、紫、黄、も、こ、付、あ、う、杯、朝、夕、か、雨、た、と、楽、し、む、は、く、ま、ら、ま、

雨、周、乃、警、花、隅、田、川、の、雨、

夜、い、こ、と、を、り
 暑、尔
 あ、ま、乃
 空、の、人
 合、浦
 夕、の、や
 夾、も、心
 ま、ま、の
 可、笑



蠟、乃、燈、ト
 油、吐、灯、ト
 蠟、燭、乃、流
 き、も、ま、し
 舟、ゆ、り、ひ
 貫、時
 又、涼
 陸、の、油
 灯、船
 可、雄



蠟の燈ハ繁花ノ属して陽途をいせ、神奈安舎又ハ、夫の橋へハ
 加し、製管の平き小玉、い、水、さ、き、一、は、油、の、灯、ハ、深、寂、ふ、り、て、光、を
 志、め、や、也、心、を、た、め、書、小、白、紙、打、ら、ら、る、花、乃、ま、と、勿、論、ハ、い、ま、成、し

取揚婆
梓巫女

五阿什
大まき

かん一
鉢乃梅

紫桃
玉吐水

月小
善湯
番

夕や
楚分



秋風む

ほや
梓ふ

かけ
徳利
煮周

糸子てハ
中んまめ

梓巫女
芦雀



名揚婆ハ懐妊のちめとて何れも機憂を考へ臨月成り安産る也
むるも手術の長らふ於てハ上医亦も秘まらば梓巫女ハ存亡有非とかく其魂を
定まらん人を以思ふ事をもむるも其妙小及てハ鬼神とも役へふ也と

まけまのト
立君ト
洞揚や退治
らまき

煤乃
精

何来

冥まゆ

夜半や

うほめを

乳らひ

素云

河岸君や
まら本の中



よふころ

素仲

行者何

う休寒

夜を

立君ハ

素緑

立君や

糖ほ

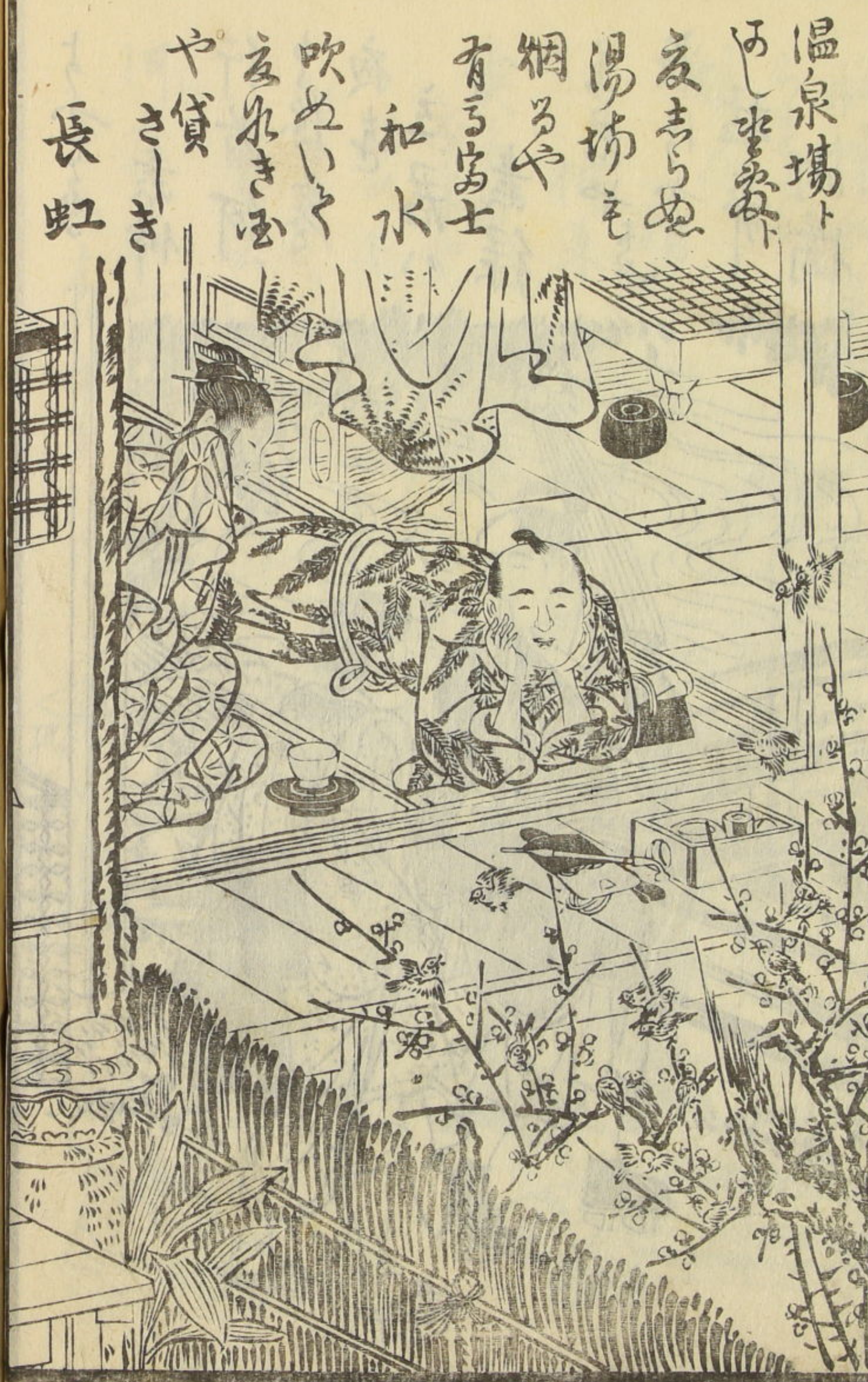
桂弄

雨橋



御代り怪力百渡川にも若かくおこの立君六つ城受け八玉言ふれを
こそ不競ふるとのハお水の難人せうやまかいかい挿へて消えお忽ち阿ら
た歌津昔度う橋うく銀を連一鬼の類いを又園と歌子ともいふ

温泉法州小町アサキと今世ハ有馬のお根お小松宗康を病志ハ平也安否控人
 年々入つていゝ生を盡ふ貸主後三都とも小町を洛本屋町小町之
 东山の御河原の賑ひ旅人かろく安子寓し空居たりと幸稀也



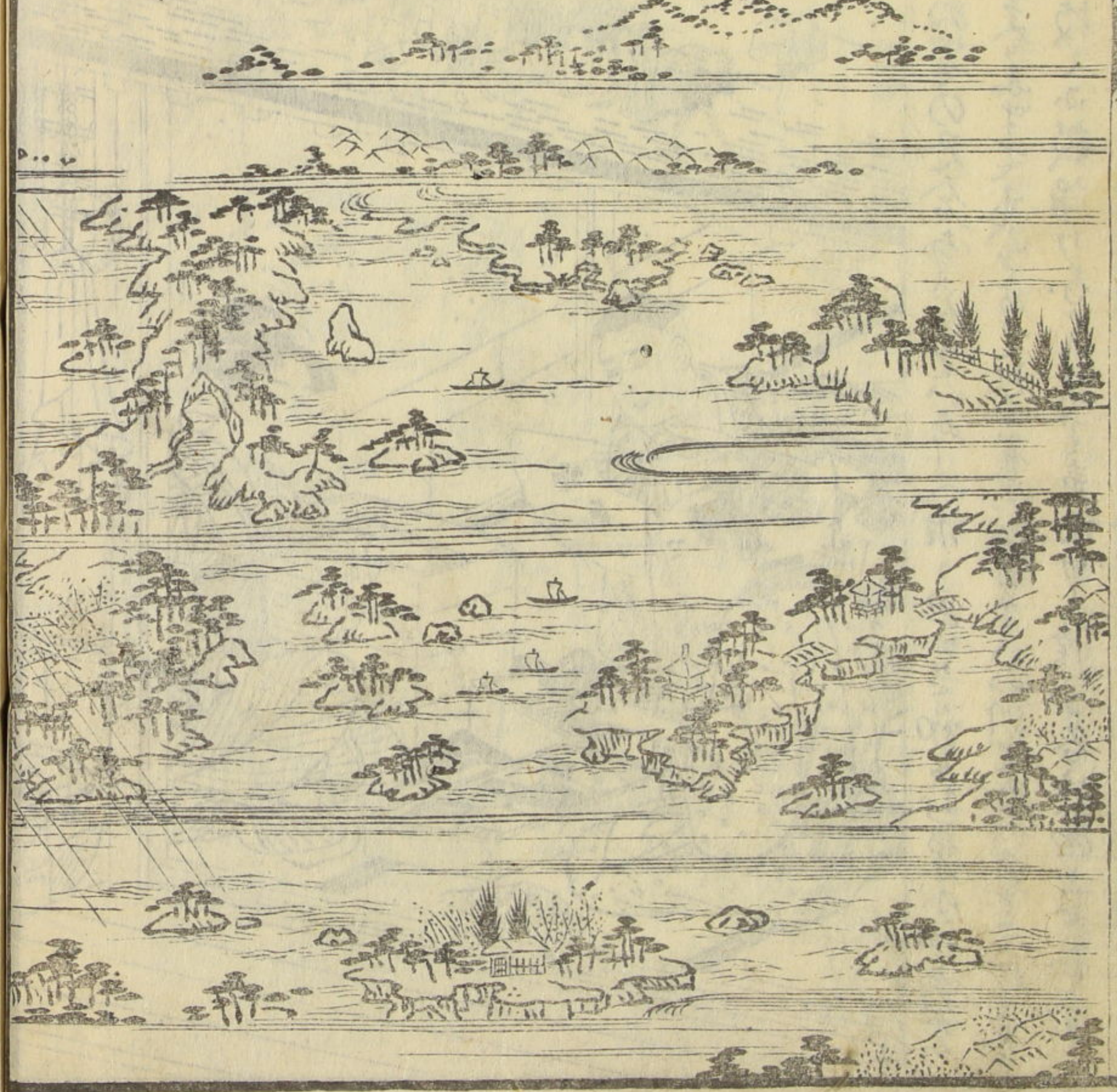
温泉場ト
 河津水
 夜吉らぬ
 湯坊主
 烟るや
 有る富士
 和木
 吹ぬいと
 玄米き玉
 や貸
 さき
 長虹



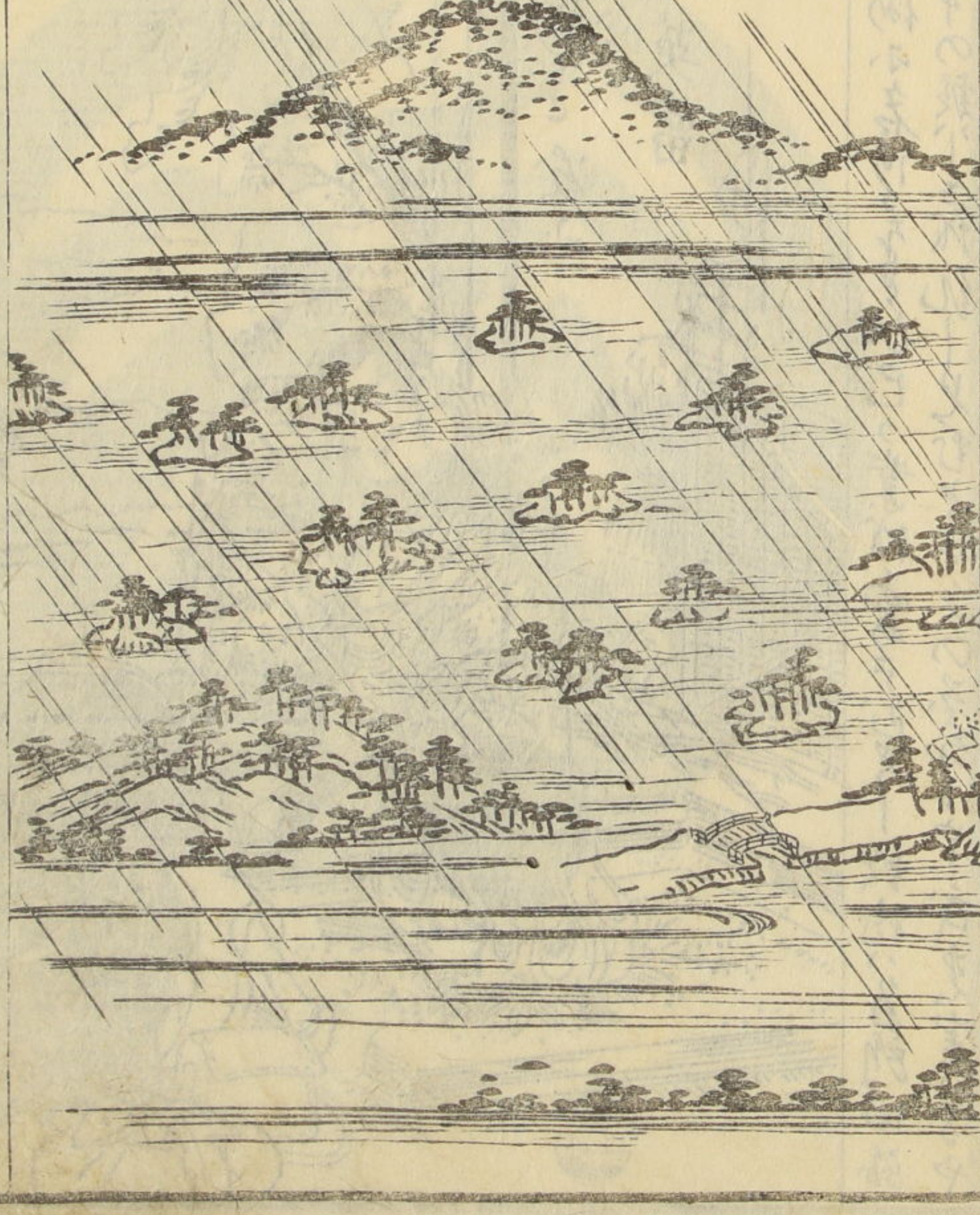
雀乃嫁入ト
 雀の宴ト
 雀入ハ
 夕の
 月夜
 よめ
 君
 賀重
 雀の風
 雀乃
 雀聲

雀の嫁入ハ人あらぬ害の又合あらんを、あ、誰か画かき初らば雀小初雀
 何ら海一雀のまゝまてもいどめたく雀のゆめ、いつとかけまてけて冬
 至の以まあまの枝こふ救派りかく集り声面白く膝へ各持燈上戸あきり

松島乃霞ト
 象瀉の雨ト
 重裏法
 如
 夕暮
 希言
 霞む中ふ
 景や
 千松園
 津蛙



象瀉乃
 雨の
 爽
 の遊志
 風
 三暁



我意の松島もさや初霧象瀉の雨や西施うねふの意け二章を吟
 味と見ぬ風色小のなれさ浦をい出と流士今も多一又三浦又も来て
 又も蟹の旨を我宿りて杯いあへまゝとあさとおひ人も忘れさるや

武者修行ト哥松ト

文雅ト

や雪小

武田の

玄玄

修竹

玉川

素調

あまのこら 樹をよふ

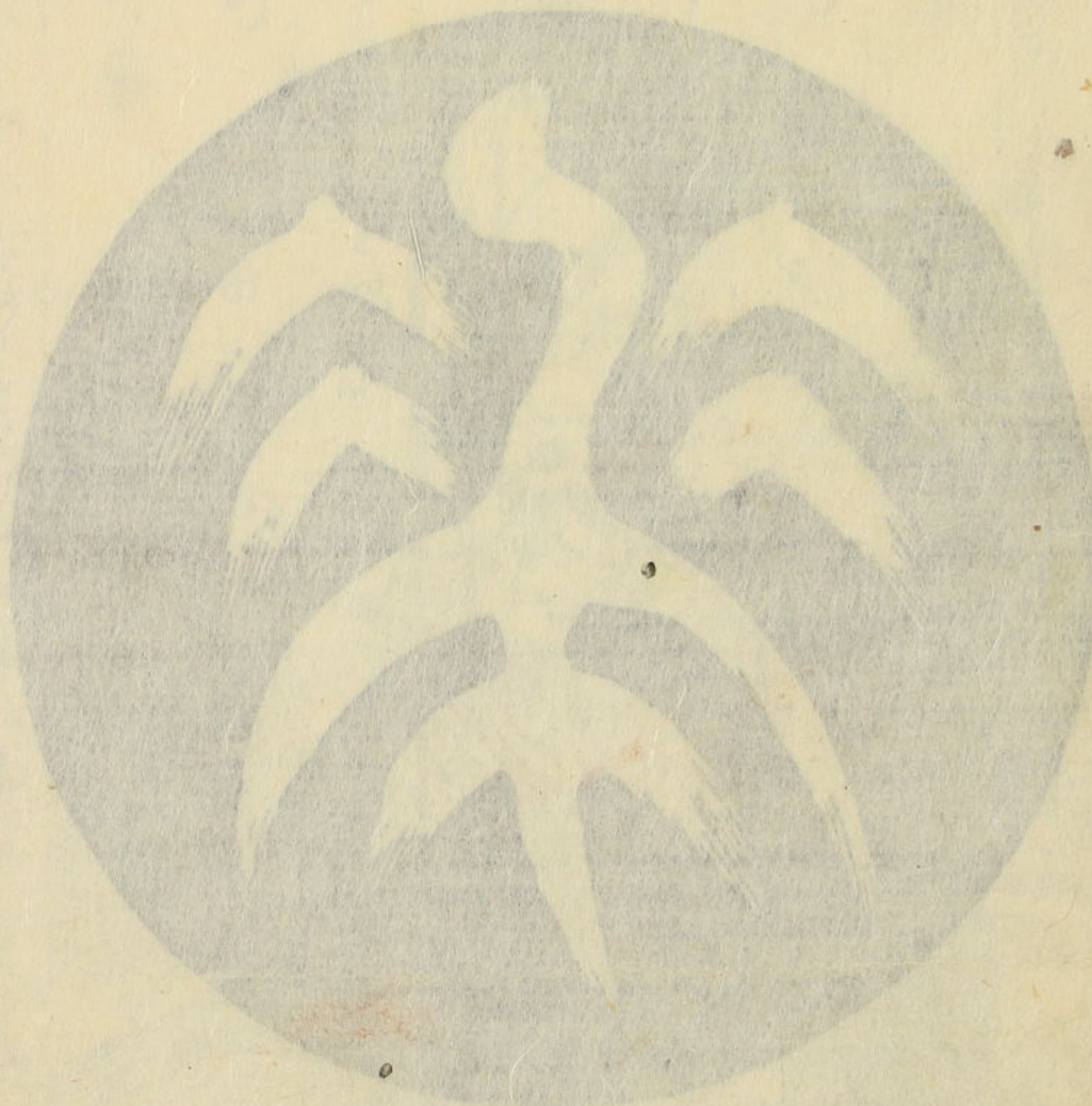
江戸の 英富

夜や



武者修行ハ雪小名何をよひ已ウ業成あめしと一歌松ハ名所回路
尋ねめらきて事の新ハき成礼一見むと文の茶あや武者実りや





釣とも網せす網すとも網代いせしきや釣は只谷小舟にて万々を
独樂めり業る網ハ肘腰小舟して魚を窺ふ見し山きとせんもの也

釣
網ト

冬典

のとお休

初也
網と志

おま





新塔の蔭と源氏徳
君乃くまらひゆと
おもひ元蟬の
まゝら

亀長

きまへ
今
遠音
峰石
乃
本中
き次



未はじき
可ひ多し
存生教さ
見玉ふ
源氏乃君の
まゝらハ

蘿道

明く
見て
物
けり
日休
申美の

角カト
軽業ト

如水

日乃

秋也

申也

半也

五也

少也

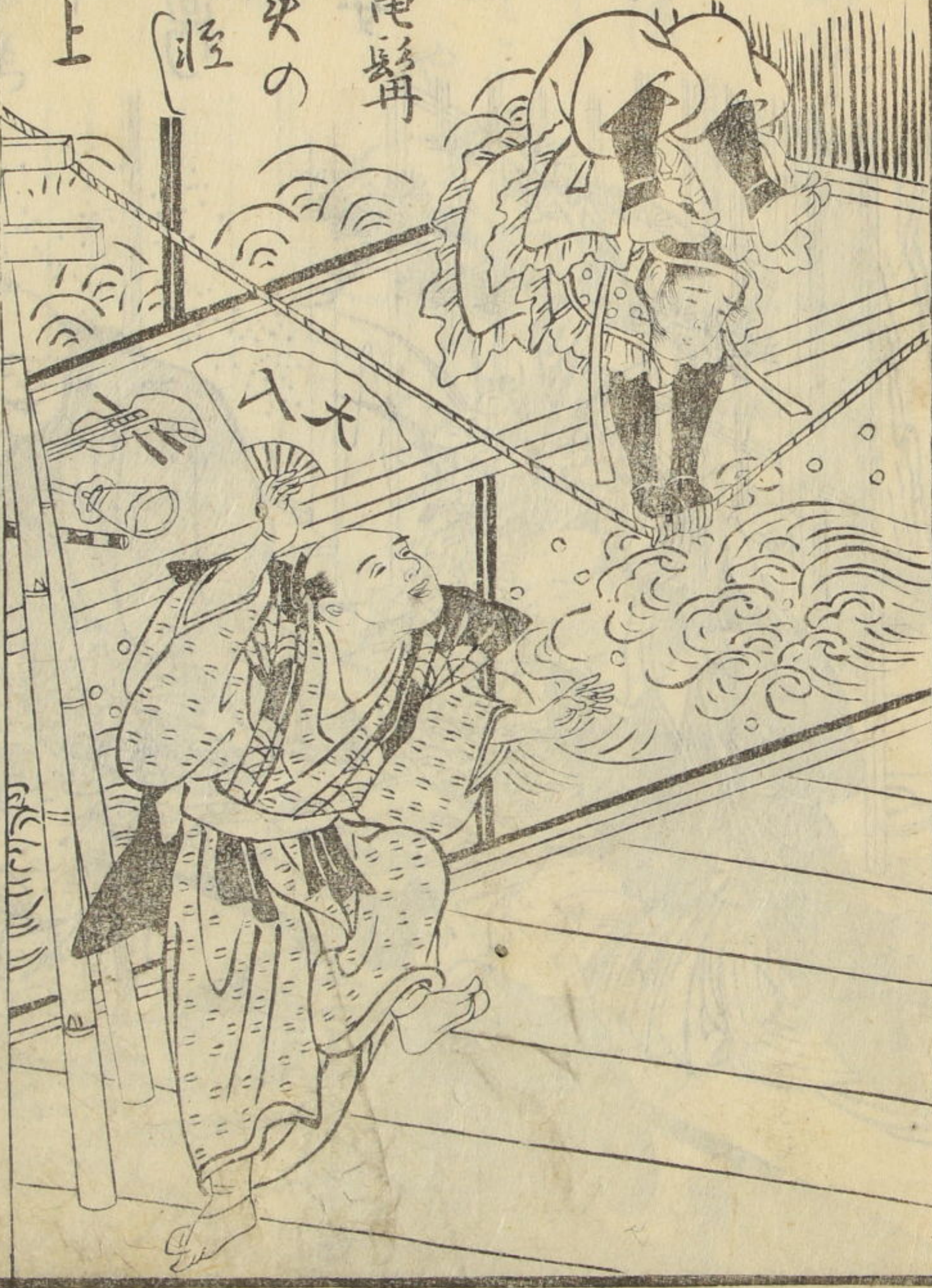


亀鬚

術ハ夾の

まきしん

中此上



抵戲ハ古儀を困るあり相角川ノ刀城何れやふて教は十八多水ノ鏡也
上を算と一輕趨き繩上小歩をすめ竿頭小歩後一十目小
安きを考れしすあ術とて同小髪を入也

宝小富
不男ト
万小令
英男ト

一鼎

ふや

花女

照世ト

月乃

不形

こハ



素芥

傾城

(忠)

かく

たをここ

雪乃

梅



唐の張謂う清小英令多からされを交り深うらひさきと宝小富て不本ら
をところ心のすふらまいふらと英小中をた英男中行事も内陽小
心き去りし紀とを意のく小中して英

伏見の
舟ト
伊勢路
馬ト

桃壽

起る月

見る人

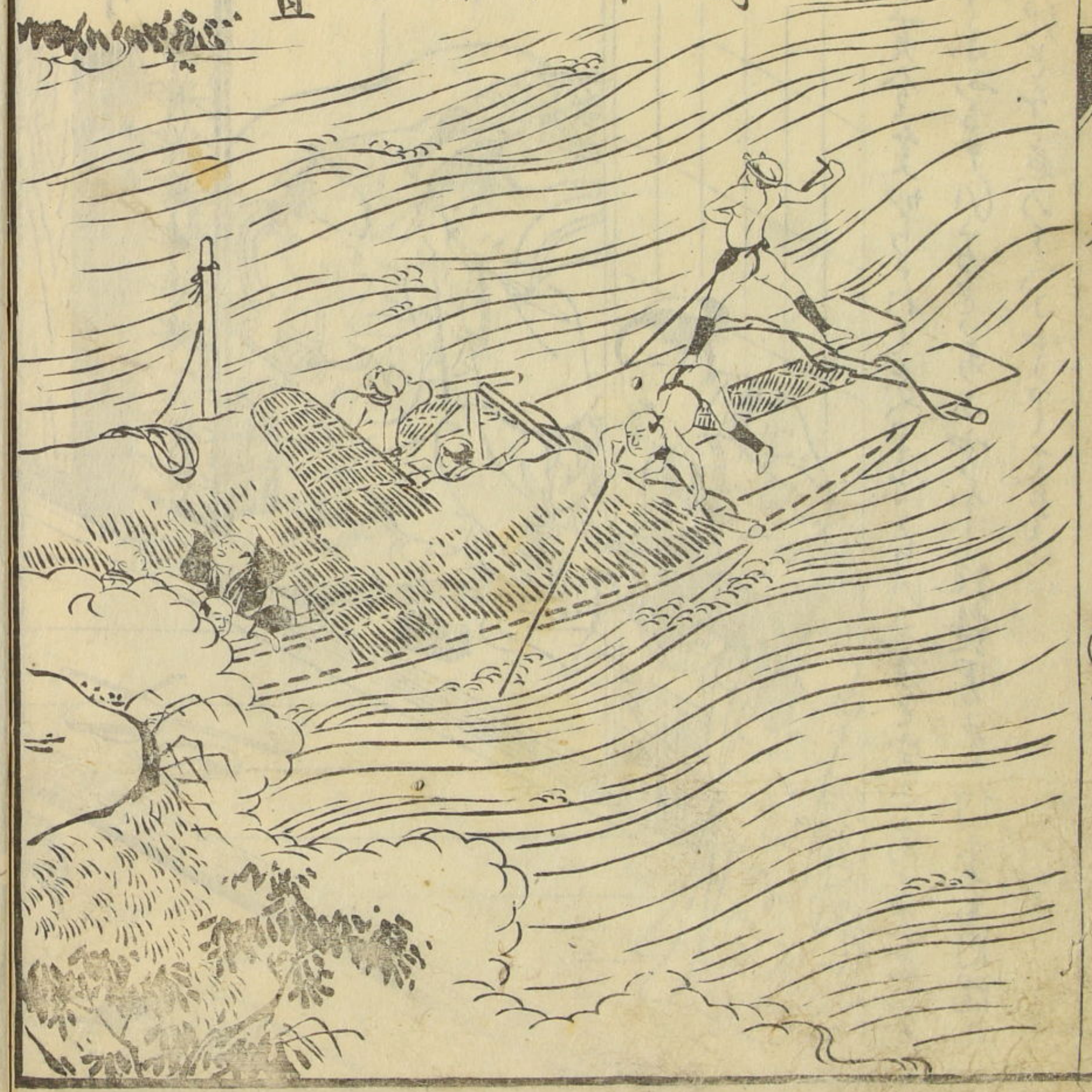
やこ舟

福宮し

程菊且

夜の船

肘まくら



左右り花
申すのり

馬小

のり加減

津柿

南無三方

行人

急げ

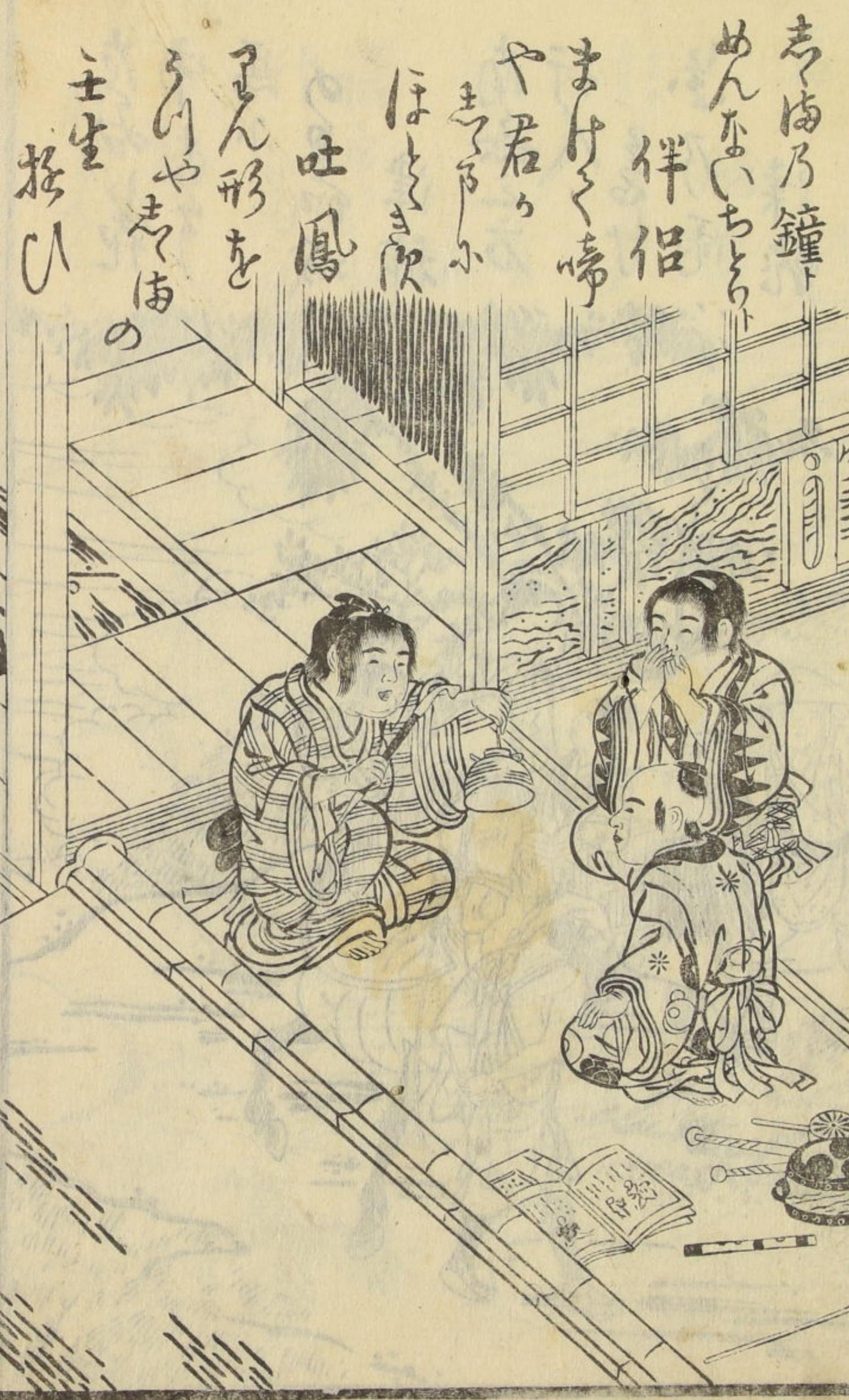
急乃雨

津籠



三十石ハ夕ア小伏見を出て何れも浪急し急あつたゆゑと清女也
書あひしと事小之宝荒神を二人旅たる事宗具小宗せ一人を
中少跨ると打渡らひ又こひけ色行くけ舟の自中如ハ及た

去の海の時ハ歌ふもあはらうものいふぬ法の行ひをりし起るる小やさる哉
いひとかく稚遊いともがためんかい子もい昔まきアの目かーと
唱へく家うと探り捕へるをせ彼之様をかめいし吐きの戯もいんせ



去の海乃鐘
めんないちとら
伴侶
まけく啼
や君う
ほとく
吐鳳
まん形を
ういやく去の
主生
招ひ



かい
か
時ふ
笑歌や
罵乃
梅
壽朝
隠
も
見
浦
ち

王子猷雪夜戴逵造城懐い舟少く舟門より帰る云真小宗て仍真尽之
 帰る何ぞ必し戴安道城見ず遠法師盧舟小舟く溪を越て出止
 或日陶法の二氏小訪りて送る小思つと橋をさる虎溪の二笑是か

我を忘る

出舟ト

真宗ト

研せらる山

ももとの

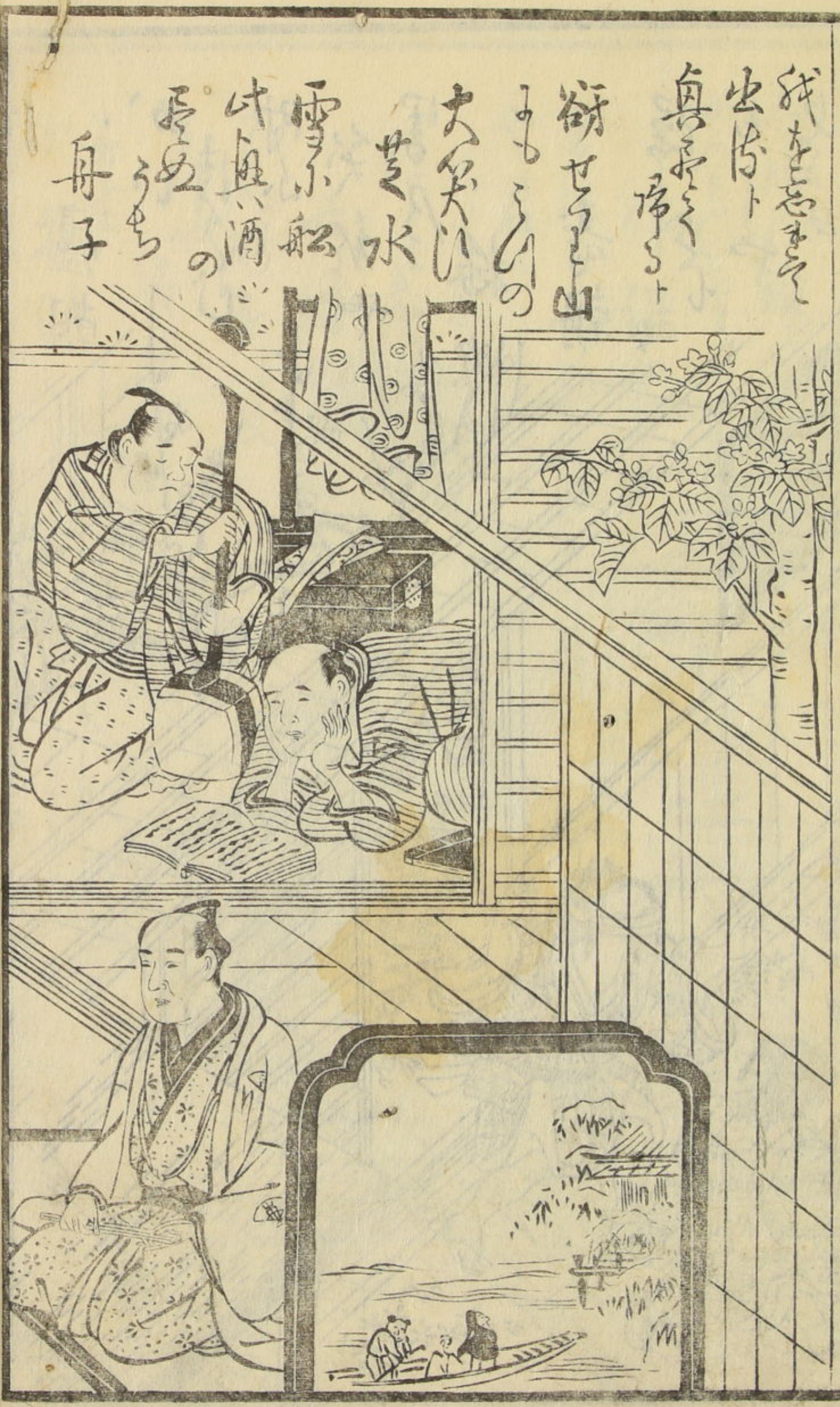
大笑い

芝水

雪舟船

舟真酒

舟子



江戸節

義太夫

さの口

かーや

形を

考乃

品

素人

大梅の

品小ゆも

也

素尺



半ちまハ江戸の音聲小ゆも一丸文句優小と音色ふく曲輪の面おも
 何となく杉のひ出さるくぬや義太夫ハ忠臣孝貞恩徳の程をせめ
 大坂雙氣の作小ゆのきく一得一雨の品律の個々感あり

玄宗帝ハ八種云遠ク術小月宮子昇リ了仙女の舞を見ルハ浦島子ハ約ク
 於闕小玉正レ所を得ク長ク二百年ト歡樂和漢書小傳一言子傳

花宮下

月宮下

蛸ハ色衣

松魚

烏帽子

糸内

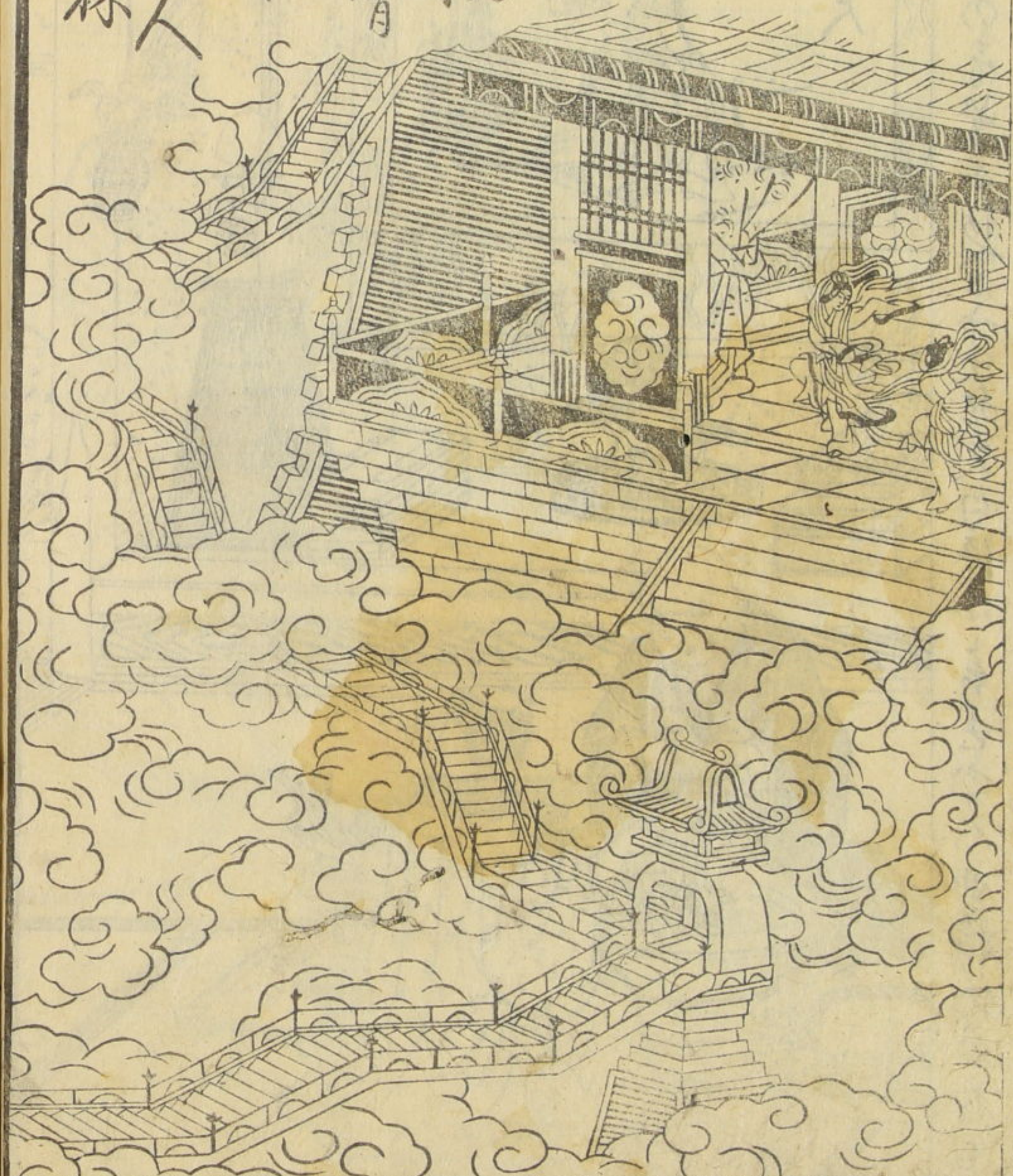
雪風

陰小今宵

女侍らん

月也

東林



雲下浪下

夕々

雲おき

夏乃

雨後

住虎

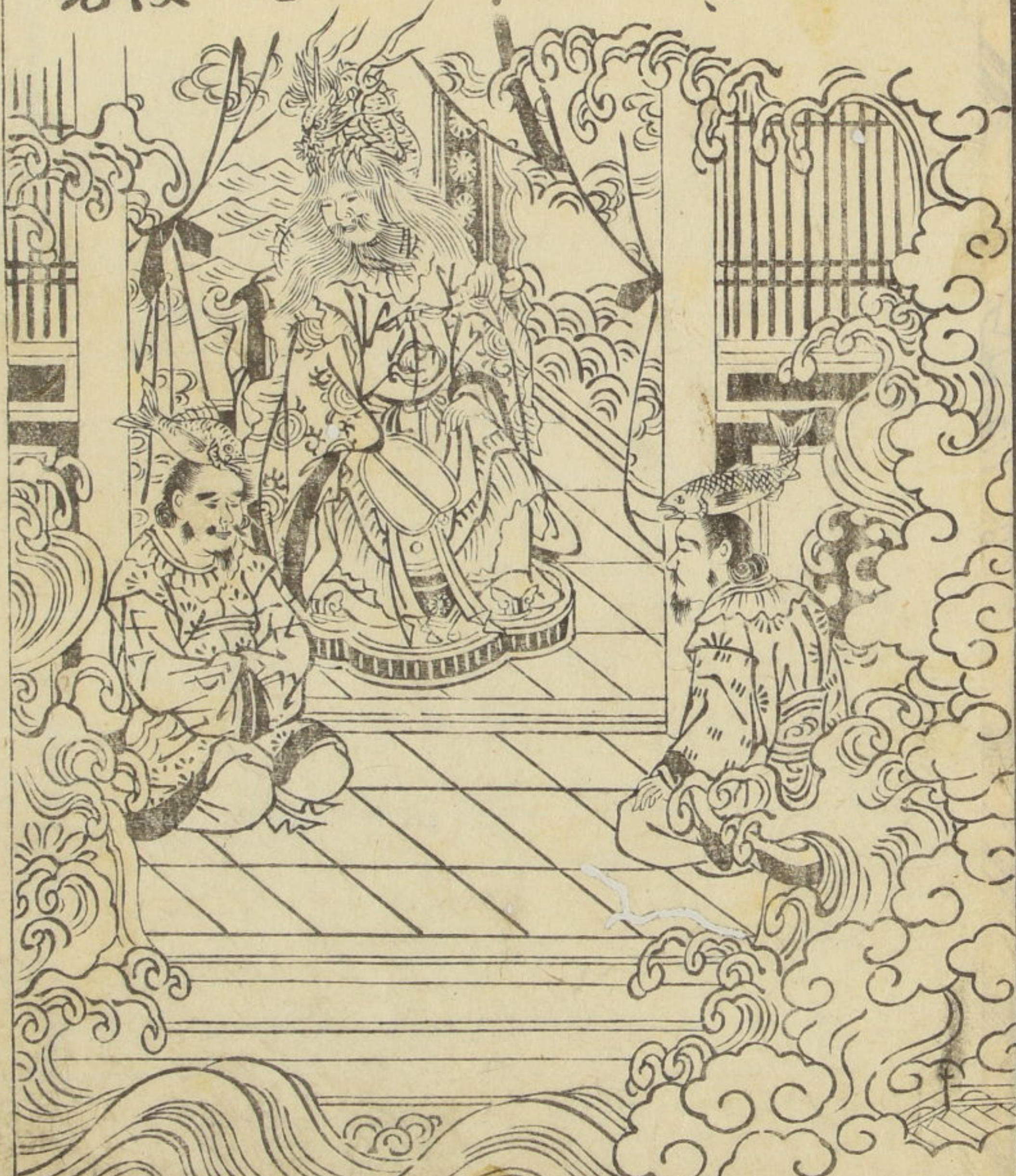
まろめ

まろ月

碎く

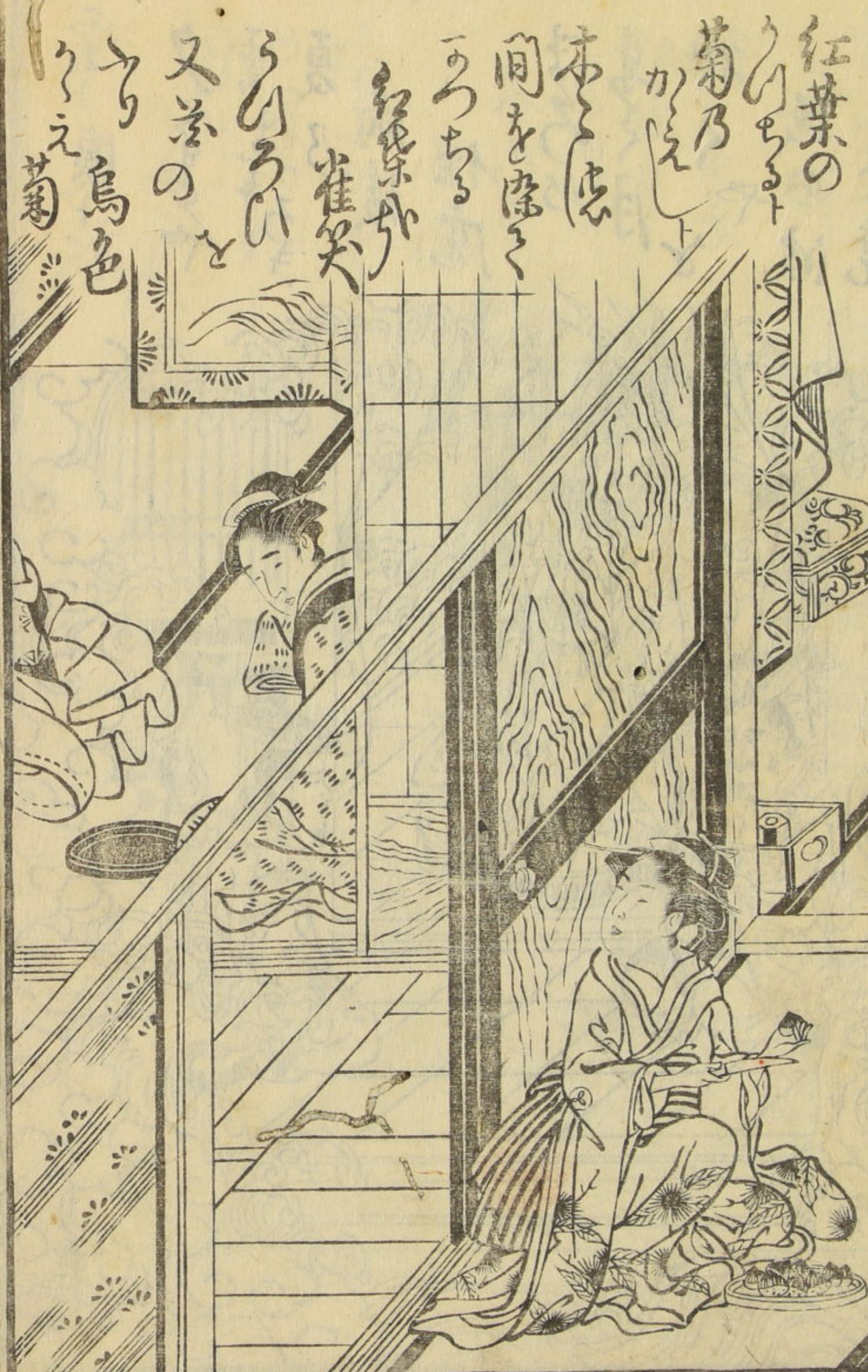
破の波

李曉



山川の氣重と成風まて吹て波と起て雨ハる夜おををてて耕地と李氏ハ
 浪ハ潮汐小きう以漁場小藤甲とまを又証物となを附ハ二ツとも文移の良材

蘇ハ内を月ハ満リ紀をのこ見るとのふ秋も若狭迎き以葉もか人
とくちもかひちらけをひちよ紀をうれのおりふ事ハゆりや折傾き
若ふ髪のかと若か〜ちつさるゝ秋も何んう又見とる海〜



紅葉の
うらもろト

菊乃

かほト

あま志

間を際々

あつち

紅葉が
雀笑

うらもろ

又茶の

うら鳥色

うえ菊

芋らひの
俗ト

栗と云乃
娘ト

芋らひ乃

うき名
見も

蛸
坊と
や
麥圃

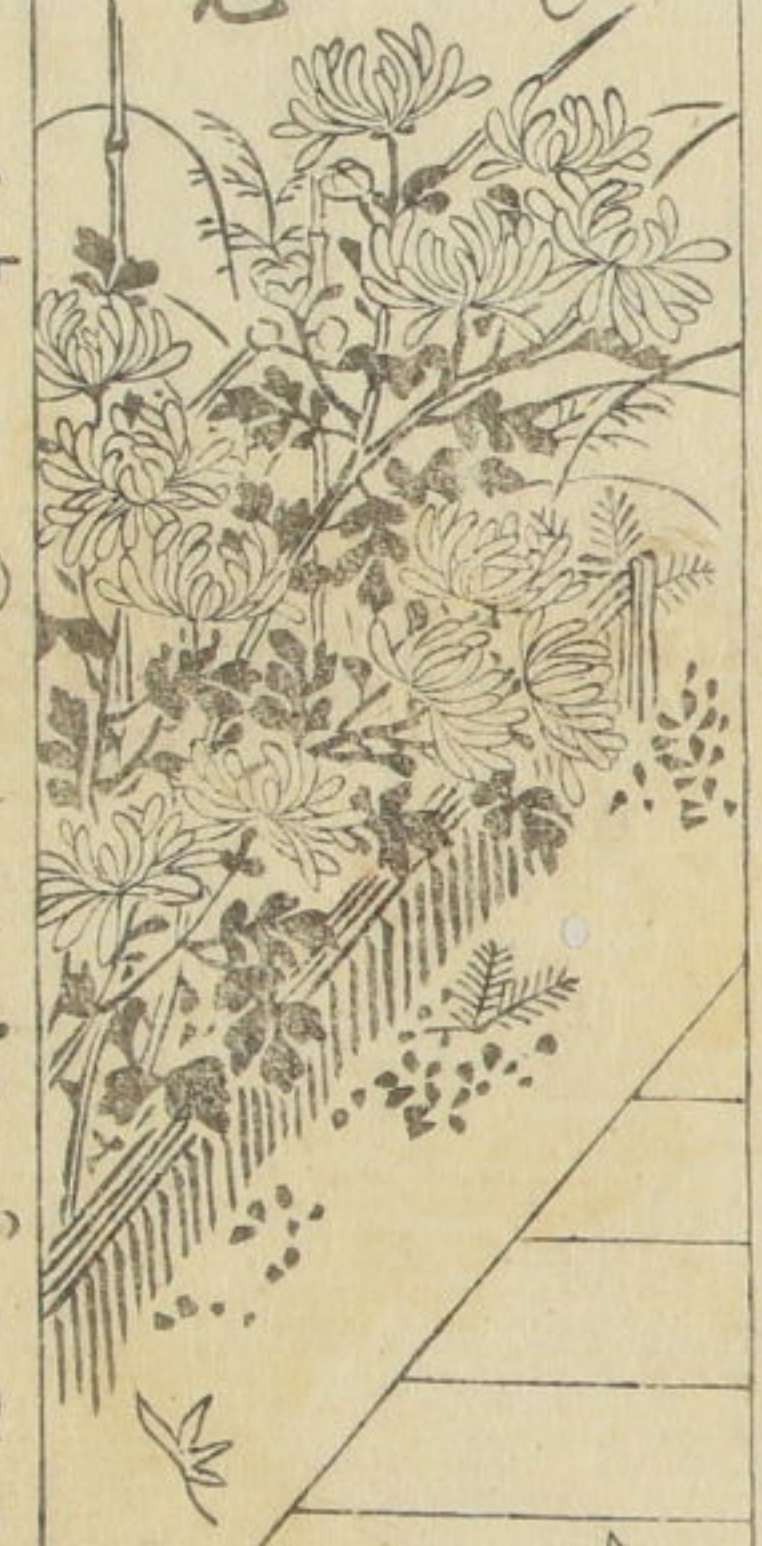
見と

栗と云乃

娘

洗百志

皮色



盛親僧都ハ芋ら好まうのこ見尋常ちらぬ事ハ多〜されと真言の
大徳りき人ゆらせ〜と何未入道の娘ハ若小栗と云乃と喰けま
形よけハ人云〜これと云や〜と親や〜は是得と失と唯事のや〜を

士峯ハ三國小跨る時ありぬ泳めの故くかやふふいと海にたれ湖水ハ
 近江を才一とせめらるる小名たれハの景何れも清きいしく俗
 傳ふ富士一坂小涌水とてさ縁湖水とちる深小山も山湖も湖を

湖ト

富士ト

日もあつこ

入るや袋ふ

深登乃

湖

士藤

さよ自氣

霞ハ

不長ノ

まひ乃袖

幡乃



猿者ト

熊夫ト

雪の世を

頼心業

中り物

木子亮

斧の柄も

朽む

想出

空見

教

分香



麻を運ぶ者其山をえんとせけを枝小斧をまを谷を知らずやゆん
 こやふふ傳ふ人の目ふ危き事又かろく(一)き世とてさろくの安きと

鶴ハ仙家の良禽也ハ蓬萊の甲長カキ大虚小舞遊ハ是水面カ
うかミ嬉シム壽千々萬々衆

鶴ト亀ト

素全

日毛 長キ

鬚ヤ

雀乃

背ト

脚

池水

龜

の萬叶女

毛 夾涼シ



四十四乃物競員外

孔子ト釋迦ト

花鳥ハ咲カセセメ人子麟

寶馬

大言ト奇者ト多ク遺教主

津富

狐ト狸ト

蘭菊ヤ怪小茶の名むじり

龙簾

腹はくころのや宮庭乃荒舞臺

九井

一集子題

競ハ多ク世ト形徳山龍田山

素外

投合

山中素云
木下素尺
酒井麴人

彫工

岡本松魚
父
岡本松阿

補闕

書林

申椒堂須原屋市兵衛

